

公務員・教員採用試験

公務員試験

公務員試験は、「国家公務員」と「地方公務員」に分けられます。採用先が国の機関であれば国家公務員、地方自治体の機関であれば地方公務員となります。公務員希望者は増加傾向にあり、当然、試験合格も難しくなりますので、早くから周知な準備が必要です。公務員試験は採用試験といわれますが、採用資格を得たにすぎず、合格すれば合格採用候補者名簿に登録され、最終的な採用は各省庁などの試験を受けた後になります。

国家公務員採用試験の種類

総合職採用試験、一般職採用試験、専門職採用試験、経験者採用試験があり、総合職はキャリア組といわれる各省庁の幹部候補生、一般職は各省庁の中堅職員として公務にあたります。



地方公務員採用試験の種類

地方公務員採用試験は、各地方自治体の職員を採用するための試験であり、一般に上級(大学卒業程度)、中級(短大卒業程度)、初級(高校卒業程度)に区分してありますが、地方自治体によっては、級区分を設けていないところもあるため、受験を希望する地方自治体へ直接問い合わせてください。

教員採用試験

公立学校教員採用試験

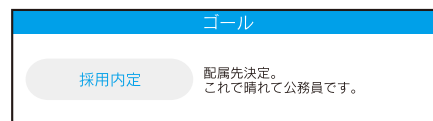
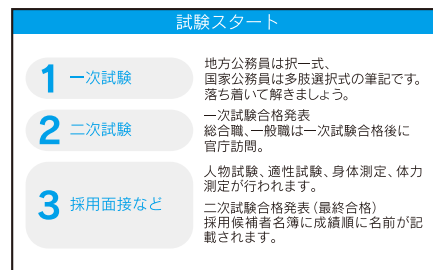
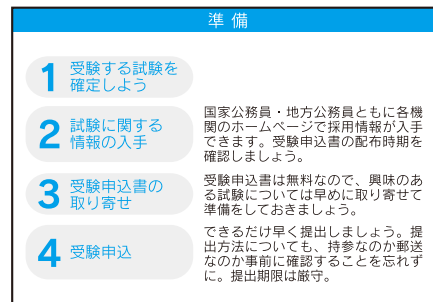
公立学校の教員採用試験は各地方自治体の教育委員会によって実施されます。最近では、少子化の影響で教員採用数が減少し、競争率が非常に高くなっていますので、早い準備が必要です。教員志望者は、毎年実施される教員採用(一次・二次)試験を受けなければなりません。この教員採用第一次試験に合格した者が二次試験に進み、これに合格した者が「公立学校教員予定候補者名簿」に登録されますが、この名簿の有効期間は一年間だけです。また、九州内における教員採用試験の日程はほぼ同日に行われますので、掛け持ち受験はできないことに十分注意してください。

私立学校教員採用試験

応募方法には主に次の方法がありますが、採用環境は厳しい状況となっています。

1. 私立学校から大学に求人依頼があり、それに応募する。
2. 各都道府県私学協会等が実施する「私立学校教員適性検査」を受検する(この検査は、採用試験ではなく、あくまで選考資料となるだけです)

出願から公務員への道



教員採用試験の流れ

